

三心を磨く

学校だより NO. 30
平成30年 9月13日(木)発行
須坂市立東中学校
文責：金井勝久(教頭)
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

◇ゲスト・ティーチャーによる全校集会 ～土屋信一さんのお話から～

9月12日(水)、全校朝会が行われました。今回は「ゲスト・ティーチャー」として「土屋信一さん」を迎え、「西日本豪雨災害ボランティア報告」をしていただきました。西日本豪雨災害では本校も生徒会も「募金活動」を行い、「自分たちに何ができるのか？」を考えました。そのような背景もあり、とても充実した時間となりましたので、ここでその様子の一部をお伝えいたします。

西日本豪雨災害ボランティア報告

土屋 信一さん

◇西日本豪雨災害

西日本豪雨災害の状況をお話します。東中学校では、生徒会が募金活動を行いました。

募金は、誰もが気軽に参加できるボランティア活動のひとつの姿です。生徒会の皆さんが自発的に取り組んだこと、そのものが凄いことだと思います。

西日本豪雨災害は1府7県という広範囲での災害で、豪雨災害としては類を見ない大きな被害をもたらしました。この災害では、岡山県総社市に住む、私の大学時代の後輩の自宅も2階まで浸水し被災しました。今回のボランティアで、私たちが訪れたのは「広島県呉市」と「安芸郡坂町」の2か所です。どちらの地区でも土砂の撤去作業を行いました。

○8月14日呉市での様子(スライドの内容より抜粋)

- ① 土砂に埋まった畑 ② 土石流で倒壊した家
- ③ 土石流となった沢
- ④ 一輪車で土砂を運びだす。(人海戦術による)
- ⑤ 全ての土砂を運びだした後の様子。達成感で一杯。ようやくボランティアが来るようになったと家人。
- ⑥ かるうじて生き残った野菜。
- ⑦ 向かいの地区も土石流で畑が流されている様子
- ⑧ 遠くの山にも崩れた跡が、至る所にあった。



○8月15日安芸郡坂町の様子(スライドの内容から)

- ① 呉の空はどこまでも青かった。
- ② 2日目は安芸郡坂町へ移動。土石流でへし曲がったガードレール
- ③ 岸に乗り上げた土砂や木材、ブロック塀を倒し、欄干も流れてしまった。

写真：「呉市の倒壊した家と付近の様子から」

- ④ 積み上げられた土嚢 ⑤ 坂町小学校の土砂撤去作業
- ⑥ 一輪車で土砂を運ぶ ⑦ 高く積み上げられた土砂の山
- ⑧ ボランティアメンバー ⑨ 坂町災害助け合いセンター
- ⑩ 累計ボランティア数1万2,908人
- ⑪ センター横の川には、ペチャンコになった何台もの車



山の中は手つかずで、少しの雨でも安全確保のため作業は中断、中止になります。高速道路から見える広島や岡山の山々では、至るところに崩れた跡が見えました。

ボランティアはまだ不足している状況であり、復旧までには長い時間がかかりそうです。

そんな中の8月28日、通勤帰りのカー・ラジオで、「坂町の小学校で授業が始まった」とニュースで聞き、1日だけの活動でしたが、自分のことのように嬉しく思いました。

◇まとめとして

ボランティア活動というと、何だか抵抗を感じたり、構えたりする人もいます。

なぜ、私が災害ボランティア活動をしているのか考えた時、最初にお話したように阪神・淡路大震災の経験は非常に大きいと思います。しかし今回の西日本豪雨災害のボランティア活動で、無心に全身汗だくになり、ひたすら一輪車で土砂を運びながら、「これは修行だな」と、ふと思いました。もちろん、活動の場面で被災者の方々から「ありがとう」「ごころうさま」と声をかけていただけることは、大きな喜びであり、やりがいにもなります。しかし、人の役に立つために何かを考えると考えるよりも、ボランティア活動は「自分自身が精神的に成長するためのもの」と思った方が、自分にとっては気が楽となり、このスタイルなら「これからも続けて行けるかな」と思いました。

当たり前のことですが、私たちボランティアは限られた時間、日数でしか活動ができません。ずっとその場で生活を送るわけではありません。主役はあくまでも、そこで生活を送る被災した方々です。そのことは決して忘れてはならないと思います。

人間ひとりの力は小さなものです。でも一人でも多く集まれば大きな力となります。皆さんもボ

ランティア活動に、いつか機会を見つけて参加してみてください。実際に被災地を訪れて、自分の目で、耳で、鼻で、肌で、五感で感じる機会をぜひ、もって欲しいと思います。旅行でもかまいません。「百聞は一見にしかず」です。

最後になりますが、台風21号、北海道いぶり東部地震と絶え間なく自然災害が発生しています。かつてはここ須坂市でも56災害という宇原川土石流災害があり尊い人命が失われました。自分の命を守ってくれるのは、最後は自分自身です。災害時にどう判断し、どう行動するのか、それは自分自身が決めること

です。常日頃から災害について考えることはなかなか難しいですし、私自身も被災経験があっても、自分だけは大丈夫とってしまうことも事実で、人間ってそんなものだと思います。だからこそ、大きな災害が発生したときや、震災記念日には、防災・減災について考える機会としてほしいと思います。そして、親御さんから受け継いだ命を大事にして欲しいと思います。

★★★★★「土曜参観」学校保健委員会「親子講演会」お知らせ★★★★★

【学校保健委員会】 演題：『がんと命について』

講師：長野県立こども病院 血液腫瘍科部長 坂下 一夫 医師

15日(土)は「土曜参観日」です。保護者の皆さん、この機会に子どもたちの姿をご覧ください。尚、当日は「学校保健委員会」も合わせて行われます。子どもたちと一緒に、県立こども病院に勤務されている「坂下一夫先生」のお話をお聞きます。先生のお話は、日々のこどもたちとのかかわりから「いのちの尊さ」、「生きる」ことについてご講演です。また、現代の最も多い病気「がん」の病気・治療・社会とのつながりについても、正しい理解ができるようにお話いただく予定です。ご参加ください。

